

平成 24 年度 第 2 回花巻市文化財保護審議会

(記録)

日時：平成 25 年 3 月 28 日(木)

14:00～15:50

(休憩なし)

会場：花巻市役所石鳥谷総合支所 3 階

3-2、3-3 会議室

(会議に先立って配付資料の確認)

----- 次 第 -----

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 報告
(1) 平成 24 年度文化財関係事業報告について
- 5 協議
(1) 「好地のシダレアカマツ」の花巻市指定文化財の指定解除について
(2) 「湯本田植踊」の花巻市指定文化財の指定について
- 6 その他
- 7 閉 会

(委員 11 名全員出席)

会議の内容(概要)は、以下の通り。

1 開 会 14:00～

2 教育長あいさつ

年度末の忙しい中の委員各位の出席に感謝を申し上げます。

この 1 年委員の皆様のご取り組みに感謝する。

本日は、事業報告と「好地のシダレアカマツ」の指定解除と「湯本田植踊」の指定についてご協議いただきたい。

25 年度の事業計画については、5 月に開催予定の審議会において報告したい。

25 年度の文化財関係の予算は、予算削減の中で、概ね要望を確保した。

定期人事異動で、文化財課長が大迫総合支所長、課長補佐が花巻図書館長兼東和図書館長として異動となった。

3 月議会で、花巻城跡整備の質問があり、既に予定した整備は終了し、さらなる整備については、残っている資料に差異があり、今後の整備予定はないこと、都市公園としての整備はあるだろうという答弁をしたところです。

3 会長あいさつ

任期があと1年、今後ともよろしくお願ひしたい。

本日は、示された案件の他に、皆様から日頃のお考えのことも意見として出していただきたい。

よろしくお願ひします。

4 報告（ここからの議事進行は瀬川会長）

(1) 平成24年度文化財関係事業報告について（資料 No1）

小原係長～高橋上席主任 資料説明（説明内容省略）

（中村課長から、花菖蒲の状況、遺跡標柱について、補足説明）

○質疑応答（主なもの）

瀬川会長＝花菖蒲だいぶ復活しているようだが、カヤのようなもの邪魔しているが、なんとかならないか。また、教育長のあいさつの中で、花巻城跡の整備は終わったとの話があったが、西御門だけで、あとはさっぱりなにもしてないのではないか。台所御門の柵形の土塁も復元していない。花巻城の調査が尻切れトンボではないか。今後さらに花巻城の整備、調査をする計画があるのか。
教育長＝城跡としての整備の考えは今のところ市としては無い。

瀬川会長＝管轄が3つに分かれている。都市整備が公園整備、観光課が西御門、史跡が文化財課、これを統一できないか。花巻城跡は大事にしてもらいたい。

教育長＝市全体の認識が会長と同じように持っているか、さらに遡れば花巻小学校や市役所庁舎にまで影響が及ぶ。金をかけて、復元することそれだけで良いのか、人口が減少し、財政が厳しくなっていく中で、市全体として見直し、取捨選択をしなければならない。瀬川会長のご希望は、十分伺いました。

高橋進委員＝関連して、どこかに稗貫家の時代の遺跡を見つけてもらいたい。室町時代のものがどこか1カ所で良い。

瀬川会長＝現在の花巻城の面が指定となっており、それより古い時代のものは、現在の指定を解除しなければ、発掘できない。

最近の報道等で、新たな図書館やこどもの城の整備の話があるが、現状の施設をどのように活用するかについても十分考えてほしい。

教育長＝財政的な背景があり、合併特例が5年延長になって、この間に、必要なことは早くやろうということ。合併特例が期限切れになると、相当厳しくなる。来年度から、交付税が大きく削減される。その中で、やるべきことは、急いでやらなければならない。中心の空洞化の中で、街の再生も考えなければならない。

中村課長＝柵型の復元について、あの周辺の下の調査をしていない。形状がはっきりしないところがあり、計画をしっかりと立てないと難しい。今後慎重に取り組むべきと考える。稗貫氏の時代の件については、最近三の丸周辺で、住宅建築で発掘機会が増えている。これから、さらに調査が入ることが予想され、その段階で、おそらく何らかのものが出てくる可能性があると思う。

花菖蒲の件については、指定敷地内で外来種とかカヤのようなものがたくさん

ありまして、切りたい。この場合、文化庁の許可が必要で、問合せしたことがあるが、まず、環境整備計画を作成してからでないかと認められなかった。今後は、カヤが花菖蒲増植の妨げとなることを理由に文化庁に協議していく。

鎌田委員＝花巻城パンフレットをボランティアガイドが活用できるように、関係機関への配布の際、配慮願いたい。

小原係長＝承知しました。

5 協議

(1) 「好地のシダレアカマツ」の花巻市指定文化財の指定解除について

(事前に委員に送付の資料)

(文化財保護条例に基づき、意見を求めることについて)

～調査報告者の大森委員から、調査報告書により、状況の説明

(説明詳細省略)

- ・マツクイムシ病により枯死状態

非常に残念であるが、伐採処分が必要である。

阿部委員＝ムシの駆除などで対処できないか。

大森委員＝とてもそのような対処はできない。また、周辺への影響を考えると、伐採やむなしと考える。

中村課長＝県の振興局のマツクイムシパトロールの方にも見てもらったが、完全に中までやられており、回復は難しいとのことだった。

早めに指定解除して対処が必要である。

なお、市指定のマツの指定木は、他に金毘羅のアカマツと奥州名残りの2本ある。この所有者にマツクイムシについて、注意を促している。

今回は、通報が遅れ、手遅れになって残念な結果となった。

瀬川会長＝大変残念ですが、指定解除に異議ございませんか？

各委員＝異議なし

瀬川会長＝それでは、指定解除に同意します。

(2) 「湯本田植踊」の花巻市指定文化財の指定について

(事前配布資料)

中田委員から指定調書による説明

(さらに、DVDで「郷土芸能発表会」での公演を上映)

(説明詳細省略)

- ・演目を全部演じると4時間以上になる。
- ・湯本小の取り組みが熱心
- ・指定により、伝承に弾みがつく。
- ・笛の養成が急務。神楽との交流で解消できる。

高橋進委員＝この件は、「湯本田植踊」を文化財として指定するのか、湯本小

の子どもたちの田植踊を指定するのか、よくわからない。大人がやっている田植踊を指定するのであれば理解できるが。

中田委員＝ちょっと説明不足でしたが、当然大人の「湯本田植踊」についてのことで、子どもはその予備軍として紹介したもの。ただ、「子ども手踊り」という演目もあり、子どもはそちらで出演することになる。

高橋進委員＝大人のベストメンバーによる演技を見て、今後花巻市において、残してもらいたいというスタンスで検討すべきと思われる。

中田委員＝一つの民俗芸能団体のすべての演目を見る機会はほとんどない。神楽の演目をすべて見るためには、夜中までかかる。全部を見て判断するのが一番良いことであるが、なかなか難しいのが実態。さきほどのビデオは、子どもたちの演技でしたが、大人でなければできない演目も伝承されている。消えた演目もあるが、指定を契機に復活できる可能性もある。

中村課長＝さきほどの映像は、たまたま最近のものとしてご覧いただいたもの。田植踊は大人だけでなく、子どもも関わる芸能。花巻に田植踊の登録は21団体、休止団体が9団体、約半分。子どもが加わる田植踊は、少子化により、伝承が難しくなっている。田植踊を指定しているのは、東和の百姓踊と石鳥谷の八重畑の田植踊だけで、旧花巻市には、1件もない。神楽団体はほとんど指定になっているが、大神楽はまだ1件も指定になっていない。このことについて遅れているところであり、今後調査しながら指定していきたい。今回は、その中の第1段として考えております。

瀬川会長＝代表の高橋毅さんは、非常に熱心です。2年前に指定について、聞いたときは、「まだだ。いろいろ手直しなどが必要」という話があった。これについては、指定すれば、地元のコミュニティ会議がいくらかでも応援する。別の神楽団体にも応援しており、同様に応援する。

菊池委員＝指定になっている団体の活動状況はどうなっていますか。

中村課長＝活動してない、休止したところがあります。丹内山の雅楽などがあるが、やれる人が何人か残っていれば、活動の芽があるということで、特に解除ということもしていない。

阿部委員＝後継者不足について、自分の地域にこだわってきたことから、この垣根をとって、他の地域と大同団結をしてでも保存する、ということを手助けするのが、われわれの役目ではないかと思う。教育委員会にもお願いしたい。

瀬川会長＝（指定について）異議ございますか。

各委員＝異議なし

瀬川会長＝それでは、「湯本田植踊」を市の指定文化財に指定することに（同意）します。

6 その他(主なもの)

阿部委員＝新聞等で高村記念館や図書館のことなど、やっとな文化関係のことに予算も向けられてきているように思う。博物館などたくさんある中で、このような施設が大同団結する予定があるか伺いたい。

中村課長＝現在、市内に資料館、記念館併せて14館あり、その中には、古い老朽化した施設もある。また、同じような歴史民俗資料を収蔵しているところも多くある。予算が厳しくなっている状況で、どこかにまとめて、きれいに見せる、保管することが必要ではないか、ということから、現在、(施設の)再編について考えているところです。その中の最初の声として出てきたのが、高村記念館で、40年以上の施設で、老朽化にともない、花巻歴史民俗資料館を活用して、花巻市高村記念館となります。5月15日に仮オープンし、平成27年、高村光太郎来花して70周年の年に改めてリニューアルオープンする計画となっております。

阿部委員＝そのような動きがある中で、壊すのは壊すということもあるが、その前に、各施設がもっている資料を集めて保管する資料館を作っておくとか、収蔵している資料をどこにもっていくか、まずこれを考えることが大切ではないか。文書館とか、資料館を整備して施設の再編に取り組んでもらいたい。

瀬川会長＝光徳寺の指定文書がなくなっている。北松斎の関係で所有者に調査したところ、先代が亡くなってからわからない状況とのことだった。確認してください。

高橋進委員＝(阿部委員の意見に関連して)古文書解読会で、御次留書帳を解読しているが、このために、市の図書館でコピーしてもらっている。このときに、マイクロフィルムのコピーをお願いしたが、マイクロフィルムリーダーが故障でできなかった。また、この機械が古く、インクが市販されていない。花巻市文化財として保管している図書館が、これを解読のためにコピーもできない状態。文化財を活用できる状況をつくらないとだめではないか。

新渡戸記念館にも同様をお願いしたが、使わないから、マイクロフィルムリーダーを処分したとのこと。マイクロフィルム化していても活用されにくい状況となっている。有料化しても良いから、コピーなどができて、活用できるようにしてもらいたい。

中田委員＝マイクロフィルムであれば500年は解読できると言われており、国会図書館では今でもマイクロフィルムでやっている。花巻でもマイクロフィルム化しているのであれば、500年はもつ。文化財を残すためには読み取る装置もなければどうしようもない。

中村課長＝意見として、わかりました。

瀬川会長＝他になればこれで閉じます。委員の任期はあと1年、よろしくお願ひします。

7 閉 会 15:50

次回5月中に審議会を開催することとして閉会

傍聴者 1名